

谷川徹三が揮毫した詩碑の建立70年を祝う
宮沢賢治の思いを次世代につなぐイベント

東山町長坂の新山公園にある宮沢賢治詩碑「まづもろともに」の建立70年記念事業「賢治とともに詩と音楽の世界へ」(実行委員会主催)は6月4日、東山地域交流センターで開かれました。

詩碑は、宮沢賢治が晩年「東北砕石工場」で技師として働いた縁を大切にしようと、旧長坂村の青年団が1948年に建立した。取り組みに賛同した哲学者の谷川徹三さんが、賢治の「農民芸術概論綱要」の一節「まづもろともにかがやく宇宙の微塵になりて無方の空にちらばろう」を詩碑の言葉に選び、筆をふるいました。

当日は谷川徹三さんの息子で詩人の俊太郎さん(85)、孫で音楽家の賢作さん(57)を招き、満員の約350人が集まる中、にぎやかに節目を祝いました。

式典では詩碑に刻まれた「農民芸術概論綱要 農民芸術の総合」の朗読や「精神歌」の斉唱などが行われました。

俊太郎さんは「子供たちに賢治の詩を読んでほしい。心の深いところで感じるものこそ賢治が伝えたかったものだ」と次世代へメッセージを送りました。

会場に訪れた渡辺凛さん(花巻北高2年)は「俊太郎さんの詩は多く読んでいたが、知らない詩もあった。本人の朗読に圧倒された。来てよかった」と貴重な機会を喜んでいました。



1_賢作さんのピアノと東山小3年生52人の合唱で開幕
2_トークセッションでは、谷川徹三さんとの思い出を語った
3_ピアノで弾き語りする賢作さん
4_農民芸術概論綱要を朗読した鈴木青伍(せいご)さん(一関一高3年)
5_徹三さんの人生を描いた詩「アンパン」を朗読する俊太郎さん

メダカ棲む環境願い苗植える
川崎で「メダカ米田植え交流会」

川崎町門崎の「メダカたんぼのお田植え会」(農事組合法人門崎ファーム主催)は5月21日、同地区の水田で行われました。同交流会は今年で10回目。首都圏から駆け付けた「川崎ファン」や同地区と交流のある岩手大学の学生、地域住民など過去最高の約120人が参加しました。

メダカが棲む環境を保つことを願いながら、1ヘクタールの水田にひとめぼれの苗を丁寧に植えました。

授業の一環で仲間と参加した岩手大学農学部2年の小笠原純香さんは「泥の感覚が気持ちよかった。収穫にも来てみたい」と笑顔を見せました。



標高1626mの山頂で餅まき
栗駒山で登山シーズンの幕開けを祝う

栗駒山の「山開き」と「山頂の餅まき」は5月21日、栗駒山で行われ、登山愛好家らが山頂で登山シーズンの幕開けを祝いました。須川ビジターセンター前で行われた安全祈願祭では、約120人が登山客の安全と観光客の来訪を祈願。テープカットの後、参加者らは残雪の残る山肌を踏みしめながら、2時間ほどかけて頂上を目指しました。

山頂では今年から餅まきが行われ、澄み渡る青空と360度のパノラマの中、約100個の餅が参加者らにまかれました。

標高1626mの山頂で行われた餅まきに、参加者らは一様に笑顔を見せました。

七色の花を探す「音の旅人」たちのパーティー
間近で繰り広げられる庄巻のステージ

「ミュージックパーティー vol.3」は6月16、17の両日、千厩町千厩のマリアージュで開かれました。同イベントは、震災復興コンサート「千の音色でつなぐ絆in千厩」をきっかけに、千厩町奥玉出身の電子オルガン奏者・千葉祐佳さんが企画したものです。

両日合わせて400人の観客が、国内外で活躍する演奏家の生演奏とユーモアあふれるステージに魅了されました。

毎年同イベントを楽しみにしている熊谷充子さん(75)は「プロのステージを間近で聴けるのが魅力。地元出身者の演奏を聴くことができるのがうれしい」とほほ笑みました。



気分は探検隊、幽玄洞で古代に思いをはせる
壁面の化石を専門家と一緒に見学

「七田清さんの化石の勉強会」は6月11日、幽玄洞で行われました。講師の七田さんは県地学教育研究会の会員。東山町長坂で日本最古のアンモナイトの化石を発掘した人です。

当日は午前の部と午後の部合わせて30人が参加。幽玄洞内で見られる化石の説明を聞いた後、鍾乳洞内で、壁面の化石を見学しました。宮城県大和町から家族4人で訪れた小林颯空君(小5)は「初めて鍾乳洞に入った。探検をしているようでした。化石も1つではなく、4つ5つとたくさんの種類を見ることができたので驚きました」と満足げな様子でした。

ILCかるたや偏光板を使った工作に挑戦
「サイエンスキッズ」で科学への関心高める

「いちのせきサイエンスキッズ」(市主催)は5月21日、山目のイオン一関店で開かれました。同イベントは、ILC(国際リニアコライダー)の実現に向け、小学生以下の子供たちにも科学や宇宙への関心を持ってもらうために企画されました。

参加者はILCかるたや偏光板を使った工作「ブラックウォールを作ってみよう」を体験。高エネルギー加速器研究機構(KEK)素粒子原子核研究所高橋将太さんから、筒状にした2枚の黒い偏光板の中に黒い壁が見える仕組みについて学びました。山目小3年の伊藤紗樹さんは「壁があるように見えるのが不思議」と科学への興味を示していました。



インバウンド観光に期待、訪日客をスムーズに案内
音声ガイドペンの貸し出しを開始

「多言語対応観光ガイドブック・音声ガイドペン」の貸し出し(市主催)は5月19日から始まり、専用の観光ガイドブック内に音声ガイドペンをかざすと写真の場所の観光案内を聞くことができます。日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の7カ国語に対応しています。貸し出しは一関観光協会観光案内所、厳美渓レストハウスとげいび観光センターで1日500円で行っています。

貸し出ししている一関観光協会の菅原清忠事務局長は「多くの外国人に一関の魅力を理解してもらいたい」と話します。